



『 ステンレス鋼の灯籠 』

3月13日、鎌倉見学の機会を得ました。好天のこの日、梅が満開であたり甘い香りを振りまいていました。かねてから一度は見たいものだと考えていたステンレス鋼の灯籠を探しに鶴岡八幡宮を訪れました。JR鎌倉駅の近くに一の鳥居が建っています。両脇を灯籠と木立に囲まれた、参道のはるか向こうに赤い建物が見えます。リュックを背負い、運動靴で歩く人たちが目立ちました。参道の左右は車道になっていて自動車が列をなし、ブーブーと音をたて厳粛な雰囲気壊しています。自動車の通らない日にここを歩きたいものです。

二の鳥居を過ぎてもまだかなり距離があります。三の鳥居の手前でうるさい自動車の音が離れていきます。この鳥居のすぐ脇に目的のステンレス鋼製灯籠が一对見つかりました。まず、階段を上り参拝をして、大銀杏の側を降り舞殿で行われていた結婚式を横目に、灯籠まで帰り着きました。

昭和10年代に建てられたステンレス鋼製の灯籠は今もピカピカに光っています。鳥居脇のみやげ物屋の主人に『この灯籠はいつごろ建てられたのですか?』私の記憶によると昭和19年』と教えられました。『誰が毎日掃除しているのですか?』『八幡宮の作人が。』今でもサビ一つない灯籠でした。奉納は日本橋河合佐兵衛、製作は新橋の徳増久五郎と銘板がつけられていましたが、みやげ物屋の主人に聞いた、作られた時期について疑問があったのでメールで問い合わせをすると『昭和15年6月6日東京市日本橋区本町河合佐兵衛氏より奉納されました。』との回答を 鶴岡八幡宮 教化部教宣課 より得ました。



鶴岡八幡宮（つるがおかはちまんぐう）

康平6年（1063）源頼義が京都の石清水八幡宮を勧請して、由比ガ浜付近に祀ったのを起源とする。治承4年（1180）鎌倉に入った源頼朝が現在の場所に移したが、建久2年（1191）火災により焼失。翌年社殿を建て直し、現在の鶴岡八幡宮となった。三の鳥居、太鼓橋を過ぎると左右に源平池、さらに流鏝馬（やぶさめ）の馬場や舞殿があり、正面石段の上には本宮が控える。年に40以上の祭礼が行われ、多くの観光客で賑わう。



むらの鍛冶屋®

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/ryou@memenet.or.jp>



何でもお気軽にお尋ねください！！